

令和7年10月4日(土)に関西大学 教育推進部 副部長/教授 山田 剛史 先生をお迎えし、「学生エンゲージメントと心理的安全性 ―学生の自立を促す支援と仕掛け―」をテーマにオンライン研修会を開催いたしました。東海北陸ブロックの学校から参加者239名、うち会員校215名、非会員校24名にご参加いただきました。令和6年度の参加者は233名、例年通りの参加状況でした。

講師の山田先生は、現代社会と青年心理を踏まえた教育開発を専門とされ、アクティブラーニングの推進、教職協働・学生参画による教育改革、「心理的安全性」や「自己形成」に関する実践は注目を集めていらっしゃいます。

講演では、急激な少子化や社会状況と環境変化への対応として「多様な学生を受け入れ、育てる人材育成機能の強化が不可欠」であり、社会が求める人材像は主体性や課題設定と解決能力などへと変化しています。教育は「学習者中心」への転換と出口の「質保証」、実体験を伴う「経験的な学び」の拡大が必要であり、学生が「何を身につけるか」「主体的・対話的学び」を重視したコンピテンシーベースのカリキュラム設計の重要性が示されました。次にアクティブラーニングの推進による学生のモチベーションや主体性を阻む要因として、教員側(目的や問いが明確になっていない、実施が目的化、不十分なフィードバック)、学生側(高校までに主体的に学ぶ姿勢が身につけていない、単位取得が目的化、将来不安による早期からの就職準備等)から学生の受動性が高まっていると説明がありました。

教育におけるエンゲージメントとは、「学習者が学習活動に主体的に没頭し、意欲的に取り組む心理状態、あるいは学校生活や様々な活動への関与度」であり、エンゲージメントを高める効果的な学習行動と学生の動機づけを高めるための枠組みの紹介がありました。学生エンゲージメントや学習効果をさらに深めるために、青年理解をしたうえで心理的安全性を確保することが重要になります。現代学生は、挑戦・失敗を回避し目立たず安全に過ごす、友人関係の重要性や異性への関心が高まると同時に孤独感・羞恥心・自尊心感情など自己の在り方に大きな揺らぎが生じるという心理があります。この特性を押さえた教育・学習・支援環境の提供には、心理的安全性をつくる4つの因子(話しやすさ、助け合い、挑戦、個人の強みや個性が発揮できる場)を取り入れ、学生の振り返りに対するフィードバックによる学びの成長の促進の具体例の紹介があり、学生との対話の重要性を改めて感じました。

講演中に山田先生から2つのグループ課題の提示があり、スマホを活用しまとめた意見をリアルタイムで参加者全員が共有し、山田先生からのコメントがありました。参加者からは、「しっかり参加できた研修会で楽しかった」「どの学校も同じ悩みがあることがわかった」との意見が多く、双方向の交流がある研修への要望が高いと言えます。アンケート結果は、「研修内容への興味、わかりやすさ」の項目は、とてもそう思う(79%)、そう思う(20%)と高評価でした。アンケート回収率は64%で昨年度より16%低下、マナブルへのログインが必要なことから回収率が低下したと考えられます。アンケートにアクセスしやすいよう、研修終了時にQRコードを提示し回答できる方法に変更したいと思います。